

塾長のお話を心地よく聞くことができ、講話集のテープに聞き入っていました。ですが、創業十年程からだんだん業績が落ち、いまから六年ほど前になります。が最悪の時期を迎えました。いつの間にか講話集も聞かなくなり、盛和塾の例会も欠席がちになっていました。

もうだめだと思う一歩手前で、もう一度真剣に勉強しなおそうと考え直しました。

周りを見てみると塾長を二〇〇%、頭から信じ込んでいる人の経営が伸びています。札幌塾でちょうど始まった京セラファイロソフイを勉強する分科会に最初から、そして休まず参加し、講話集もCDで聞きなおし始めました。経営

がすぐに良くなるわけではありませんでしたが、がんばろうと思う気持ち湧いてきました。

そして経営十二ヶ条を実践することを始めました。まずは、一条、事業の目的、意義を明確にし、そして二条、具体的な目標を立てるということで、経営理念を見直し、年次・月次の計画を立て実行しました。塾長の教えを読んだり聞いたり頭で分かっているだけではなく、実行がなにより必要なことをこの時理解しました。

おかげさまで少しずつ業績も向上し、会社も家庭も明るさを取り戻してきました。中小企業の経営が良くなること、が世の中を良くするのだとつ

小椋 俊秀（札幌）

（株）シンクシステムズ 会長

私が盛和塾に入塾し、二十一年近くになります。創業してまもなくの入塾で、思った通りの経営ができていた時代で、

くづく思います。そして、自分の会社だけではなく、世の中の会社が良くなることに貢献したいという気持ちわがわが、また、稲盛経営哲学のすばらしさをアカデミックな場で実証し、学問の世界を通じてより広く世に聞きたいという気持ちも湧いてきました。

三年前に私は小樽商科大学大学院博士後期課程に社会人入学し、現在、経営者と研究者という二足のわらじを履いています。この二足のわらじは研究が経営に、経営が研究に役立つという相乗効果のある二足です。博士論文の内容は「中小企業の業績がどうしたら向上するのか」というものです。例えば、日本企業の九九%が中小企業ですが、経

営理念があるのは七割で経営計画があるのは四割という調査があります。（大企業はどちらもほぼ一〇〇%）また中小企業の四分の三は従業員二十名以下（商業・サービスでは五名以下）の小規模事業であり、規模が小さくなるほど、経営理念、計画の比率は低いものとなっています。どうしたら中小、それも小規模零細の経営が良くなるか、盛和塾での学びを深め、実践を重ねながら追求していきたいと考えています。